

レブリキズマブ（イブグリース®皮下注）

難治性アトピー皮膚炎用：害は詳しくわかっていない

薬のチェック編集委員会

まとめ

- 既存治療でコントロール困難な思春期から成人の難治性アトピー皮膚炎に対して、インターロイキン（IL）- 4 阻害剤のデュピルマブは有用と本誌 116 号（2024 年 1 月）で評価しました。
- その後 2024 年 5 月から、デュピルマブと少し異なる部位に働くレブリキズマブ（IL-13 阻害剤）が販売されています。
- レブリキズマブはデュピルマブと比べて効力がやや劣る可能性は否定できませんが、よく似た効力があり、害作用も似ています。デュピルマブ同様、結膜炎やヘルペス（带状疱疹を含む）、関節炎、四肢痛などです。しかしながら、レブリキズマブとデュピルマブとを直接比較した RCT が実施されていないため、どちらが起こしやすいか詳しくは不明です。
- デュピルマブと同様、食物などに対するアナフィラキシーの頻度を増すようです。
- 発がん性など他のまれな害反応については、レブリキズマブはまだよくわかっていません。デュピルマブのほうが使用経験が多くよくわかっています。

結論：難治性アトピー皮膚炎に効力も安全性もデュピルマブに及ばない

キーワード：IL-4、IL-13、結膜炎、関節炎、四肢痛、腱付着部炎、アナフィラキシー、発がん性